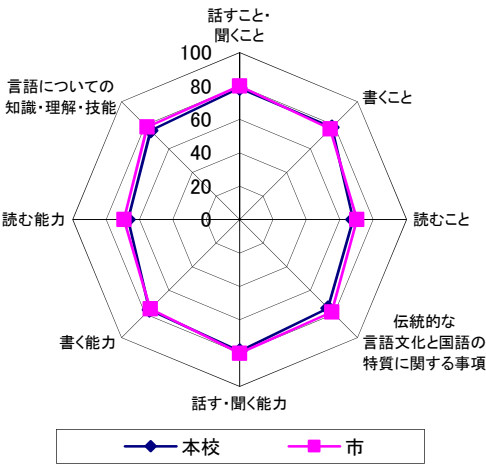


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.8	80.1	77.9
	書くこと	78.1	76.8	65.3
	読むこと	68.0	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	78.8	80.1	77.9
	書く能力	76.5	75.6	64.2
	読む能力	66.8	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	75.4	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

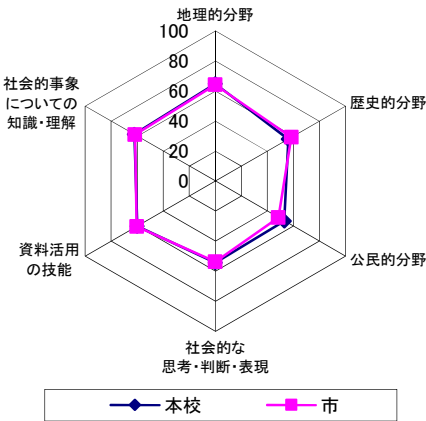
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○選択問題においては、ほぼ市の平均と同様の結果になっている。 ○話の内容を問う問題では市の平均を0.9%上回っている。 ●聞いた話を元に、自分の考えを述べる問題では市の平均を4.8%下回っている。	・話を聞いてメモを取るということに関してはほぼすべての生徒ができています。しかし、そこから自分の考えや意見を書くとなると、苦手意識を持つ生徒が多いことから、自分の意見を書くことを授業で取り入れていきたい。 ・授業中に話し合い活動など他者との意見交流の時間を多く取り、自分の意見を言う場や他の人の意見を聞く場面を意識的に作っていく。
書くこと	○作文問題では、すべての内容において市の平均を上回っている。特に、字数制限や文章構成での得点が市の平均を5%以上上回っている。 ●文章問題において、記述内容をもとに自分の考えや内容をまとめるような問題が正答率が低く、市の平均を2～4%下回っている。	・作文では、文章の文字数や構成などの条件面を満たすことは出来ているが、内容で考えていくとまだまだ改善の余地はある。 ・自分の意見や考えの根拠などを書く機会を増やし、内容が伴った作文や回答を書けるよう指導を継続する。
読むこと	○文章の構成をとらえる問題や、表現の特徴をとらえる問題では市の平均を3%程度上回っている。 ●登場人物の心情をとらえる問題や内容を捉える問題では市の平均を5%程度下回っている。	・登場人物の心情把握は文章の中に何かしらのヒントは隠されている。そのことに気づくことができるように普段の授業の中から心情について取り扱っていく。 ・また、多くの文章に触れることも重要なので普段から読書を励行していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みについては、多くの問題で市の平均を上回っている。 ●漢字の書きの問題では、市の平均を下回っている。●用言の活用や敬語などの文法問題では市の平均を5%程度下回っている。	・漢字については読むことは出来るが書くことができないという特徴があるので、普段の授業から漢字を書かせることを意識した授業を展開していく。そして、自主学習などでの漢字練習を呼び掛けていく。 ・文法についても授業中の取り扱い時間を増やし、ワークの問題を取り扱うなど、問題に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.8	64.1	57.5
	歴史的分野	56.1	58.4	52.8
	公民的分野	53.1	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	54.2	53.6	47.5
	資料活用 の技能	60.0	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	62.3	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

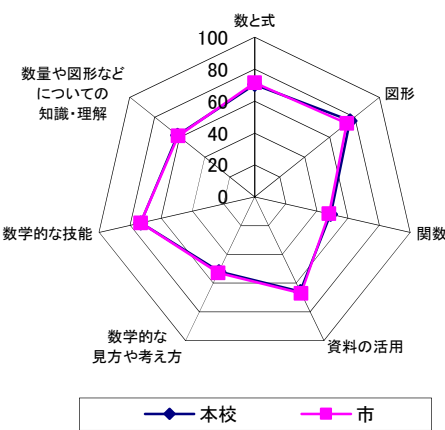
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体として、市の正答率より若干上回ることができた。また、地理の問題の中で、複数の資料から読み取る問題が出題されたが、正答率が少しずつ上昇してきている。 ●教科書の基本的な問題(太文字)などは正答率が上がってきたが、「日本の工業の特徴の説明」や「九州地方の人口問題」などの資料をもとに自分の言葉で表現する論述問題の正答率が1.6ポイント低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正答率の低かった世界地図の特色については、白地図や地図帳・資料集を用いてまとめるなど今後も指導の工夫をしていく。 ・「日本の工業地域の特徴」や「九州地方の課題」について資料をもとに把握する問題の正答率が低かったので、資料の読み取りに関しては、資料集を授業の中でさらに活用する。 ・問題演習で「この問題には、こう解く」といったような定型文的な回答方法を覚えさせる必要性を感じたので次年度実施する。
歴史的分野	○平安時代の正答率が、市よりも平均して3%程度高かった。 ●市との平均正答率を比べてみても、歴史の正答率が全体的に低いことが分かる。(特に古代から室町時代あたりまで)	・歴史的事象を自分のことととらえ、関心を高めることができるよう、共感したり、歴史的事象を身近にとらえたりして、知識が定着するように、教材などを工夫して授業を展開する。(一問一答を徹底的に行う必要性あり) ・年表を活用し、年代・世紀を確認できる授業を行う。 ・資料活用 の技能、思考・判断力・表現力を伸ばすことを意識した授業展開する。地理同様に「定型文+自分の考え」を書かせられるような課題を出していく必要がある。
公民的分野	○全体的に、市の平均正答率を上回ることができた。 ●特に自由権と関わりがある、「公共の福祉」についての理解が低い。 ●公民は大きく分けると5分野に分かれているが、一つ一つが関連していることが理解できていない生徒が多く目立つ。	・自分たちが実際に接している社会の分析にあたる内容であるので、まずしっかり知識を身につけさせる。 ・新聞の記事や、ニュースの内容など日頃の時事問題に目を向けさせるような授業の導入を工夫する。 ・「社会権」、「自由権」、「生存権」などの混乱してしまう分野の確認を随時行う。(単元プリントの活用、自作プリントの活用など)

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.4	71.5	66.8
	図形	76.5	73.8	70.4
	関数	48.9	47.8	41.6
	資料の活用	65.9	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	51.9	52.8	45.8
	数学的な技能	73.2	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	61.9	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

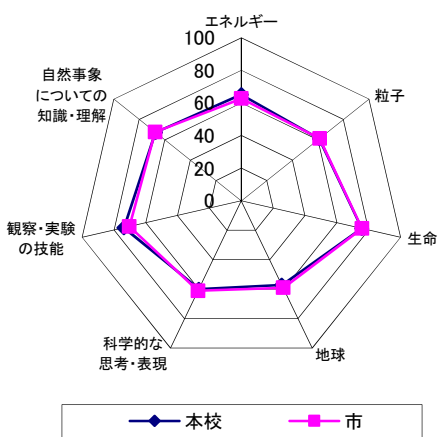
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○3年生で学習した式の展開と因数分解の問題は、ほぼ市と同じくらいであるが、2次方程式を解く問題は3. 6%高い。 ●市の平均を1. 1%下回っている。 ●平方根の計算が市より5. 4%下回っている。方程式の立式の問題も8. 4%下回っている。	・基本的な計算を着実に定着させるために、今後も個別指導や反復練習などの充実を図る。 ・平方根の意味を再確認し、その性質をもとに計算のやり方を丁寧に復習する。 ・1年生の学習の1次方程式から、関係を見つけて方程式をつくる練習をさせ、連立方程式、2次方程式と発展させ、定着させる。
図形	○市の平均を2. 7%上回っている。 ○作図は6. 1%、三角形の相似条件を選ぶ問題は7. 4%市より高い。他は同じくらいである。	・図形の基本的な性質、定理などを再確認し定着を図る。 ・合同の証明は2年生の学習内容である。「平行と合同」「三角形と四角形」そして3年生の「相似」「円」とつながっていく。過程と結論の意味、証明のしくみや進め方をもう一度復習させ、理解を深めさせる。
関数	○市の平均を1. 1%上回っている。 ○関数の問題は市とほとんど正答率は同じくらいである。 ●関係が1次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する問題では市よりも3. 9%低かった。	・「関数」についての基本的な内容をしっかりと理解させるとともに、発展的な課題に取り組ませる機会を多くもち、基本的な知識、技能を活用することで、その面白さや便利さを体験させるようにする。 ・説明するということに苦手意識を持っている生徒も少なくないので、授業で取り入れ、説明するときのポイントが分かるように指導していく。
資料の活用	●市の平均を1. 2%下回っている。 ●相対度数を求める問題が3. 8%下回っている。ヒストグラムを利用して説明する問題は7%低い。	・「資料の活用」は1年生の学習内容であるため、用語の意味や求め方などを繰り返し確認し、定着を図るようにする。 ・学習した内容を活用する力を高めるために、身近な事象やゲームなどを取り上げ、興味・関心をもたせる工夫をしながら課題に取り組ませるようにする。 ・資料を活用し、説明する力を身につけさせるために、授業の中で説明を書かせたり、説明し合ったりする時間を十分につくっていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.2	62.7	57.6
	粒子	61.2	61.5	57.7
	生命	75.6	75.8	72.1
	地球	57.1	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	60.0	61.0	54.8
	観察・実験の技能	73.7	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	67.3	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

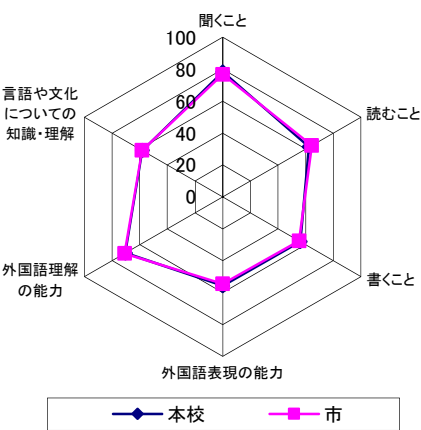
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○全体として宇都宮市の平均を2.5ポイント上回る正答率となった。音の高低を変える方法や電流計や記録タイマーを扱う時の注意点など、実験の基本操作に関する設問では高い正答率となっている。 ●電流の性質に関する設問のうち、消費電力を求める設問で宇都宮市の平均を2.4ポイント下回っている。オームの法則に関する設問についても、市の平均は上回っているが、41.2%と正答率が非常に低い。	・エネルギー分野の学習は、身近な現象に関する内容が多いが、その概念は捉えにくい。そのため、様々な現象を体験させ、モデルなどを有効に使うことで身近なものであることを実感させる。 ・計算問題も出てきて苦手意識を持つ生徒も多いので、問題演習を繰り返し行うことで、達成感を得られるようにする。
粒子	○身のまわりの物質とその性質に関する設問において、高い正答率を得ている。密度の違いによる物質の分類をすることができている。 ●全体として宇都宮市の平均を0.3ポイント下回る正答率となった。特に、化学変化に関する設問の正答率が非常に低い。化学反応式の量的な関係を理解していないと考えられる。	・身のまわりの物質がすべて粒子でできていることを理解させるために、モデルやデジタル資料を有効に活用していく。 ・量的なイメージが持てるような指導方法を工夫していく。 ・化学反応式についても、化学式を正確に書けるよう小テストなどを定期的に行っていく。
生命	○他の領域よりも正答率が高い。生物の成長とふえ方に関する設問では、全ての問いの正答率が市の平均を上回っている。また、植物と動物の分類に関する問いの正答率が高い。 ●全体として宇都宮市の平均を0.2ポイント下回る正答率となった。記述問題の正答率が市の平均より8.9ポイント下回っている。	・生物のつくりの特徴だけでなく、利点や環境との関係などにも注目させる。 ・記述問題については、練習問題などで論理的に考えを表現できる力を付けられるよう支援する。
地球	○地層に関する設問で、石灰岩の見分け方に関する問いの正答率が非常に高い。市の平均も1.7ポイント上回っている。 ●全体として宇都宮市の平均を1.9ポイント下回る正答率となった。特に、日本の気象に関する設問の正答率が低い。天気図から季節を読み取り、その理由を答える設問では、正答率が3割を超えていない。	・地球分野では、地震や気象についての学習があり、世の中の関心も高まっている内容である。そのため、生徒の関心も高められるよう、映像資料やイメージ実験を取り入れて指導方法を工夫していく。 ・気象庁などの資料も有効活用し、天気図を読み取る練習も取り入れていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	78.3	76.8	73.1
	読むこと	62.6	64.5	59.9
	書くこと	56.1	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	55.7	54.5	59.0
	外国語理解の能力	70.4	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.2	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、絵を見ながら数や場所を聞き取る問題では、100%の正答率となった。 ●英文の要点を聞き取り、内容と合っているものを選択する問題では46.5%と正答率が低く、市の平均も2.4%下回っている。また、ある人物についての対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題では、市の平均を0.2%ほど下回った。	・まとまった英文を聞き取り内容を把握することを苦手としている生徒が多いので、ALTとの対話活動や音声教材を工夫し、聞く能力の向上を図っていく。 ・多くの対話活動を取り入れ、繰り返し口頭練習することにより場に応じた応答ができるよう授業を工夫していく。
読むこと	○半分程度の問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、疑問詞+to不定詞の語彙語法を理解する問題では、宇都宮市の平均を7.6%上回っている。 ●資料や図などを交えた説明文や対話文などの問いでは、いずれも宇都宮市の平均を3~5%下回っている。特に、説明の内容と資料の情報・条件をもとに適切なものを選ぶ問題では、市の平均を7%近く下回った。	・授業中の活動で、様々なタイプ(ブログやエッセイなど)の英文を読む機会を増やし、まとまった英文を読み慣れる習慣を身に付けさせる。特に、資料や図などの情報の読み取りは、英文を読んだ数だけ実力をつけることができると考えられるので、教科書の英文だけでなく、様々な英文に触れることを重点に指導する。 ・常日頃から語彙力を身に着けることが読解力を向上させる一番の近道でもあるので、家庭学習ノートなどで英単語や重要構文などを覚える一助となるよう、既習語彙の復習を頻繁に授業で取り入れていく。
書くこと	○約半数の問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった5文以上の英文を書く問題では、市の平均を8.2%も上回る72.4%の正答率だった。 ●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題では、正答率が22.8%と低く、市の平均も7.1%下回った。	・多くの生徒が、身に付けた知識を活用して、場や条件に合う英文を書くことができていく現状なので、その力を更に伸ばしていけるよう引き続き演習を多く取り入れた授業を行っていく。 ・自分が本当に書きたいことを書くことができるよう、ALTを有効に活用したり、辞書をひく機会を設けるなどして、さまざまな表現方法を獲得するよう支援する。

宇都宮市立古里中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な深い学びの実践	「主体的・対話的な深い学びの実践」というテーマの元、全教科で自分の意見を書いて発表する活動を取り入れた。	「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 肯定的回答 R1年度91.9% H30年度90.4%
わかる授業、興味関心が湧く授業の展開(コンピュータの利用等を通して)	メディアルームを新しく作り、コンピュータ、実物投影機等を利用してやすくしたことで、各教科わかる授業、興味関心が湧く授業を展開しやすくした。	「生徒はパソコンや図書室等を学習に活用している」 肯定的回答 R1年度80.1% H30年度は項目を立てておらず

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今後も継続して主体的・対話的な深い学びができる授業を全職員で実践するとともに、メディアルーム等を活用し、コンピュータ、実物投影機等などを利用して、各教科わかる授業、興味・関心が湧く授業を展開していく。